認定特定非営利活動法人
RASA-Japan　ニュースレター
2019.12
Vol.32
理事長　藤井典夫
〒468-0014　名古屋市天白区中平2-2627　　Tel/Fax　052-803-1649
ホームページ　http://rasa-japan.com　　e-mail　info@rasa-japan.com
郵 便 振 替　口座番号　00890-4-31185
受取人　特定非営利活動法人RASA-Japan
三菱UFJ銀行　平針支店　普通　0037025
トクテイヒエイリカツドウホウジンラサジャパン

寄付のお礼とお願い　　財務担当理事　寺尾嘉泰

RASA-Japanの活動に対してご支援ご協力いただいておりますことを心よりお礼申し上げます。RASA-Japanが20年以上にわたり、学校建設や欠食児童の救済の活動を継続して実施できましたのは、ひとえに皆様からの尊いご寄付のおかげです。

しかし、近年フィリピンの経済成長は著しく、それは喜ばしいものでありますが、反面、格差も広がり地方の教育環境や食料事情は改善されておらず、学校建設費も高騰しております。

さらに、収入面では会費、寄付も会員の高齢化や会員数の減少等で厳しい状況です。

RASA-Japanの従前の活動を維持するには、資金的に厳しさを増していることを危惧し、活動継続のために支援金増加を目標に全力で取り組む所存です。

広く皆様からRASA-Japanの活動へのご理解をいただき、ご支援とご厚情をお願い申し上げます。

RASAが抱える資金不足問題

活動を継続できますのも、皆様のご支援のおかげです。今年度10月末日までに　3,010,475円の会費・寄付金をいただきました。温かいご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

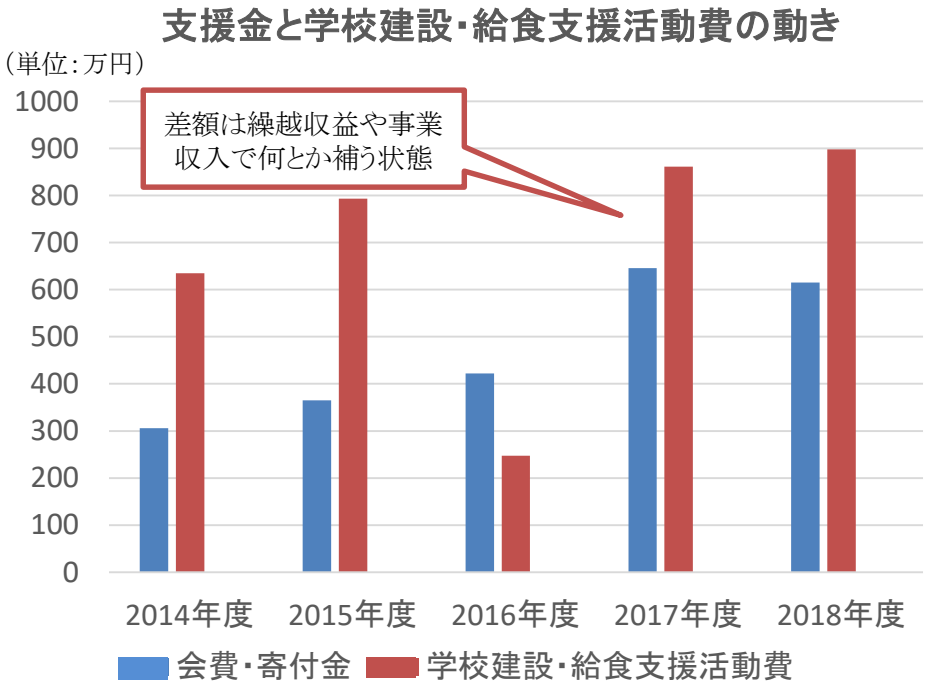
しかし、フィリピンでは経済発展とともに物価が上昇し、活動費用が毎年増大しており、5年前と比べ、

学校建設　1.3倍　約630万円
給食支援　2倍　　約270万円

となっており、この先も増加していくため、資金不足が重要な問題です。

会費・寄付金と活動費の差額は、現在、繰越収益金や事業収入等で何とか補ってる現状です。

活動を継続していくために多くの方に活動をご理解いただき、ご支援をいただけるよう、奮励努力してまいります。ご協力をお願いします。



※2016年度は給食支援のみ(学校建設延期のため)

フィリピンの子ども達を貧困の連鎖から救うために、活動の継続が必要です。
今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

給食支援の現状

場所と現状：サウスビル第Ｉ小学校、在籍学童約5800名の内1500名が欠食児童です。
RASAが指名した2名のコーディネーターが給食対象児童を体位の劣る発育不全状況、家庭の貧困具合、家族状況等を調査して、100名を決定します。
学校でも800名の児童に簡易食事(ご飯に汁をかけたもの)を提供しており、校内売店の収益金でPTA役員がボランティアで運営しています。

対象学年　：5年生と6年生　全日授業があり、昼食が必須のため。4年生以下は午前と午後の2部制で昼食は自宅。

期　　間：新年度6月～年度末の翌年3月までの10ヶ月。月～金曜の週5日、1ヶ月平均20日、年間200日支給。
ただし、年度途中に児童の体位向上し、BMIが標準値になると待機中の身体状況の悪い児童と入れ替わり、給食支援を受けられなくなる場合もあります。給食室が狭く50名が限界のため、給食時間を30分とし、5年生と6年生の入替制で行っている。予算の面でも、現在100名分が限界です。

運　　営：サウスビル第Ｉ小学校教師Joyce先生と Rose 先生が2015年当校に活動場所移動以来、コーディネーターを継続。献立、材料調達、会計、児童管理を行う。調理責任者1名、ヘルパー2名。

予　　算：年間270万円　(毎月次月分を送金している)

食時内容　：ご飯(おかわり可)、おかず(野菜、肉の煮込みか炒め物、揚げ物)、フルーツ、粉ミルク、ビタミン剤

指　　導：食前手洗い、祈り(食前食後)、歯磨き、食べ方、体重・身長測定を行い、BMIを出す。

管　　理：支援活動月の翌月にコーディネーターからRASAへメールで下記の書類が提出されます。
入出金(RASAからの送金記録)報告と会計集計表、購入品レシート写し、給与等人件費領収証、児童の給食やイベントの撮影写真、年1回児童の作文等やカード
最近の食品の値上がりが著しい。学校から水道、電気料金の負担要求が来ています。

費用バランス：食材費　73%、人件費　18%、ビタミン剤　6%、消耗品　2%、ガス　1%

身長、体重ともに日本の**小学3年生の値まで成長！**

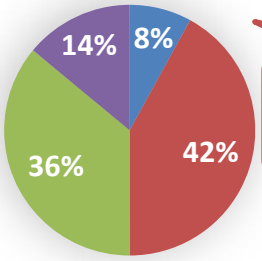
体重は日本の**幼稚園年長児**、身長は**小学2年生**の値です。

小学校5年生(50名)	2018年6月	2019年3月	年間
体重(平均)	19.24kg	27.5kg	**8.26kg増加**
身長(平均)	125.78cm	127.82cm	**2.04cm増加**

給食支援対象児童の家庭訪問

生活環境が悪い家庭が多い
・両親、無収入の家庭が多い。
・子育てを近隣で助け合う。
・家は狭く、暗い。物がない。
・病弱児や障害児が多い。
→**貧困の悪循環**

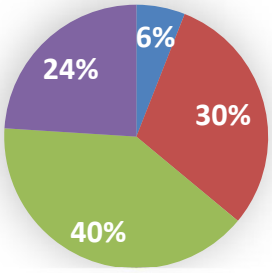
支援児童家庭の月収入



定職に就いている親がほとんどいない

■なし　■1～5000ペソ　(約1～10500円)
■5001～10000ペソ　(約10501～21000円)
■10001～14000ペソ　(約21001～29400円)

兄弟人数

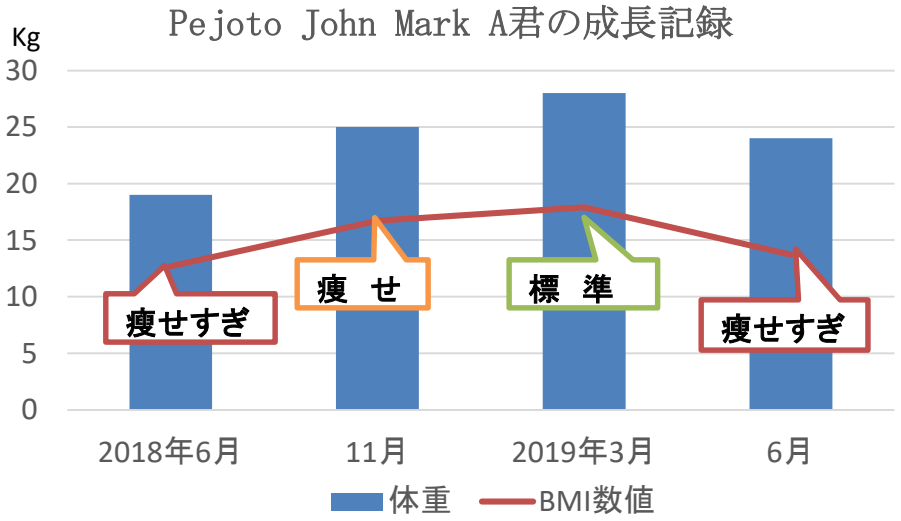


■1~2人　■3~4人　■5~6人　■7~9人

子どもの数が多いため、近隣で助け合いながら、子育てをしている。

今後の課題 ： 長期休暇中（4～5月）の体重減少

学校が長期休暇の4～5月の2ヶ月間は給食を食べられないため、順調に増えてきた体重が大幅に減少していることが判明しました。休暇中も給食支援継続の重要性を小学校に訴え、休校中も実施できるように依頼したが、申請は通りませんでした。



Pejoto John Mark A君

現在6年生だが、就学年齢が遅く、学齢は二つ年上の14歳。
障害を持っている。
父親　建設労働者
　月収5000ペソ（約10500円）
母親　無職
兄弟　4人
5年生から給食支援を受け体位向上しましたが、長期休暇中に体重が4kg減少し、6年生も継続して給食支援を受けます。

このように長期休暇中に自宅で食事をまともに摂ることができない児童が大多数のため、体重が減少する児童がたくさんいます。Pejoto John Mark A君は、翌年度も給食支援を受けることができ、また体位が向上しています。しかし、受けることのできない児童がほとんどで、「今日は何を食べているんだろう？」「なぜ、自分は食べることができないのだろう？」と考えながら、毎日給食室を覗き込んでいます。その姿を目にすると本当に心が痛いです。給食室の狭さと予算の関係上、現在の支援が精いっぱいです。何とか多くの児童を給食支援していけるように、対策を考えなければなりません。

支援児童からRASAへの手紙

私は、ラグナ州カブヤオ市バナイバナイブロック2ロット25-3に住んでいます。私は家族の中で一番年が若いです。私たちはみんな、公立小学校で学んでいます。母には仕事がありません。時々バッグを縫って、売ります。父は心臓機能停止がもとで、すでに亡くなっています。母がただ一人働いて、私たち家族を支えています。私たちは自分の家がないので、おじさんの家に住んでいます。
いつか僕は警察官になりたいです。それは、母や正義と支援を願っている他の人たちを助けることができるからです。
RASA-Japanがサウスビル小学校を支え続けてくれることを大変ありがたく思っています。

Justin De Tomas

私たち家族は、子供10人を扶養しています。私の両親は以前2人が一緒に暮らすまでは、別々の家族でした。父には2人の息子があり、母は5人の子供がおりました。それから一緒に暮らして、3人の子供ができました。私たちは今アパートに暮らしていますが、毎週その支払いのため1500ペソ必要です。時々家賃を払えません。なぜなら、お金がないからです。私は自分の勉強を早く終えたいのです。私は両親を経済的に助けたいので、一生懸命努力するつもりです。私の夢は、警察官になることです。加えてもう一つ、私は小さなサリサリストアを持ちたいのです。そうすれば、家族の必要な資金を得られ、将来支えることができるからです。サウスビル小学校を援助してくださって、ありがとう。どうぞ、支援を続けてください。重ねてありがとう。

Napocao Elyza D

第4回　Study　Tour（給食支援ボランティア活動）報告

8月25日～9月2日までの9日間、学生ボランティア12名を引率し、2011年から給食支援をしているフィリピン ラグナ州 サウスビル第Ⅰ小学校へ行ってきました。

スケジュールは下記のとおりです。

8月25日	中部国際空港→マニラ→サウスビル第Ⅰ小学校→ホスト宅
26日	午後：カブヤオ市の市場へ給食食材買い出し→ホスト宅
27～30日	午前：3班に分かれ、給食作り、清掃、日本語授業などの準備 給食時間：全員集合し、粉ミルク作り、配膳、配食、後片付け 午　後　：5、6年生に日本語授業 終了後、ホスト宅で過ごす
31日	朝、ホストとお別れをする→マニラ　史跡美術館を見学→ホテル
9月 1日	**スモーキーマウンテン見学**→ショッピングモールで買い物→ホテル
2日	マニラ→中部国際空港　解散

元気いっぱいの子どもたち

いっぱい食べてね！

活動は作業場所が狭いため、3班に分かれて行い、給食時間に全員集合します。まず5年生50人、その後6年生50人が各30分の給食時間です。その中で朝食を食べずに来た児童が給食を残しており、担当の先生に理由を聞くといつも家で食べれていないため、胃が小さいとのこと。同じ学年で4歳もの年の差があり、背丈もばらつきがあります。就学年齢が遅かったり、欠席で進級できないことが原因で、学習が遅れ補習を受ける児童は急いで食べ、先に席を立っていました。先生が子供たちの手洗いや食前の祈り、食後の歯磨きを指導をしています。

キラキラ輝く目をした子供たちがボランティアを取り囲み、ノートを出し、列をなしてサインをせがみます。純な人懐っこい子供たちは、日本ではまずみられない。日本語授業では挨拶言葉やマスゲームで楽しく、一生懸命学ぼうと授業後も追いかけてくる児童がいました。

今回Study Tourで初めて、通常入れないエリアのスモーキーマウンテン(マニラ北方のスラム街)を訪問、見学しました。ゴミの山が炭化して、火をつけると燃える土の丘を登ると、そこにバラックを建て住んでいる人の生活を見ました。電気も水も無い所で、ボランティアはショックを受けましたが、これもフィリピンの一面です。また、路上で寝る親子がいて、この国の影の部分を目の当たりにしました。

スモーキーマウンテンの住居

貧しいスラムの教会でも給食活動があることを知り、助け合う大切さを痛感しました。

「英語版　歯磨き指導シート」のご寄付

名古屋市在住の歯科医　小宮稚菜さんから毎年StudyTourに歯磨きパンフレット等をご寄付いただいています。今年は手作りのポスターをいただきました。支援児童はもちろん、全クラスに貼って歯磨き指導を先生方が行ってくださいます。各家庭に歯ブラシ、歯磨き粉がない子も多いため、せめて学校だけでも歯磨き習慣をつけてもらいたいです。

―小宮先生からのメッセージ―

この度はご紹介いただき恐縮です。RASAの活動を応援しており、勤務先受付に募金箱を置き、RASAの協力を呼び掛けています。フィリピンには以前から訪問を考えています。来年はフィリピンに行って、実際に活動したく思っております。

Study　Tour　帰国反省会

10月5日(土)　「ボランティア活動参加証明書」を活動を労うとともにさらなる発展を願って、一人ずつ渡しました。反省会では活動の仕方や時間割について意見を聞き、それを今後のより良い活動に役立てます。現地の実情を知る事が何より大切で、日本と大きく違う環境の中での諸活動やホームステイの体験により、活動前と比べて学生が一回りも二回りも大きく成長したことがアンケートから読み取れました。募集からこの日までの活動の経過を振り返り、この活動が役立ったことを大変嬉しく思いました。

StudyTour 後、5つのテーマについて考える

帰国反省会でボランティアメンバーのみなさんに、下記の5つのテーマについて考えていただきました。
この活動で何を感じ、体験し、学んできたのかがよくわかります。

①フィリピンで「人の幸せ」について、どのように感じましたか？

・お金があるから幸せとは言えない。貧困状態の子供たちは笑顔にあふれ楽しそうだった。
・幸せはお金や生活環境とは無縁と思った。人と助け合って生きることが一番人間らしくて、幸せなことだと感じた。
・幸せは眼に見えるもの、量れるものではなく、心の温かさこそ人の幸せにつながっていると感じた。
・日本人は贅沢だと感じた。不自由のない暮らしをさせてもらえるだけで幸せだと気付いた。

②日本、フィリピン国に其々有るもの、無いものを感じ取って、あなたが生きていく上で「大切なもの」は何だと思いますか？

・人が人を支えること・何に対しても感謝を持つこと。
・自分だけでなく、分け与えること、家族や他人を助け合うこと。
・人間にとって残酷なことは誰にも愛されず「孤独」なことだから、愛が最も大切。
・人と人のつながりを大切にする。

フィリピン	日本
人と人との強いかかわり 安全な水道がなく、電気は不安定で高額 子育てを周りの人も一緒にする 若者、子どもが多い人が多い	孤独、無関心 便利な住環境 お金、食料、物が溢れている 老人が多い

③日本の便利で豊かな生活環境において、自殺者が年3万人もいます。「本当の豊かさ」についてどのように考えますか？

・心の豊かさ
・便利になり、自分中心になりがちで、格差やいじめが生まれやすくなる。
・物質的な豊かさは、キリがなく慣れれば更に望み、欲が広がってい行く。得ることができないと不満を抱きく。
・本当に必要なものは精神的な豊かさだ。それは人との関わりの中で得られる。それを大事にしていくこと。
・日本は豊かになった反面、真の豊かさを失い,今後の発展で[個]だけが残るのではと。
・不自由のない生活を体験しすぎて、少しの困難を重くとらえすぎる人が増えてしまった。

④発展途上国の絶対的貧困、先進国の相対的貧困の現状で、「持続可能な発展」の解決策第一位は貧困の撲滅です。どんなことを提案しますか？

・国が全ての人が教育を受けられる設備と、制度を整える。
・貧困層の人々に選択肢をもって啓蒙し、止まっている思考を動かすようにする。
・働ける環境を作る。
・富裕層が貧困層の支援をする、まず教育の無償化、所得水準の向上など大幅な改革。
・兵器製造や戦争に使うお金をもっと違う使い方があると世界の政府に伝えたい。

⑤ ホームステイで、彼らは何を大切に生きていると思いましたか？あなたはどう思いましたか？

・家族全員で楽しみ助け合い幸せそうで、家族の大切さを学んだ。
・あれほどの笑顔なのは、上下関係がなく助け合ってきたからだと思う。
・貧しいけど今を大切に生きている。1日1日を感謝の気持ちをもって毎日を送りたい。
・経済面より、人との交流や繋がりにお金を使っている。人のつながりを大切にして生きている。

第1回RASA研修会報告

9月9～10日　岐阜県多治見研修センターにて、第1回RASA研修会を参加者10名（うち学生6名）で行いました。講師にインセン神父と佐藤勉様をお迎えして、これからの人生を考える興味深い講習会となりました。参加者から進路に対する質問が多く上がり、将来に向けてのアドバイスを聞く良い機会となりました。

最後にバーベキュー大会を行いました。今回の施設は自然に囲まれ、とても良い環境で研修会を開くことができました。

次回開催の際は、ぜひ皆さんのご参加をお待ちしております。

学生さんたちとの交流の思い出　　講師　佐藤勉

学生さんたちが話を熱心に聞いてくださったことに感謝いたします。私の晩年の貴重な体験となりました。

対話していてまず感じたことは、若者特有の昇って来る朝日のような「まぶしさ」でした。同時に社会全体が毒されていく中で、その心根の「PUREさ」に感動しました。これからもその心を大切にして生きていってほしい。未知との遭遇という未来に向かって、船出する若者たちに「幸あれ!!」と願わずにはいられません。

この機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。RASAさんのますますのご発展を祈念いたします。

ブラジル人会からの温かい支援

バザー収益金をご寄付いただきました

わたしたちRASAの周りには、日本に働きに来ている外国から来た人たちがいます。そして、彼らもまたRASAの活動に賛同し支援してくださいます。

特に感心に思うのは、ブラジル人会の方々です。彼らの本国ブラジルではない、他国の「フィリピンの子どもたちのため」に学校を建設したり、栄養失調児に給食の支援をしてくださるからです。ブラジルにもスラム街があり、多くの人たちが失業と飢えに苦しんでいると聞いています。本国だけでなく、フィリピンの子どもたちの幸せを願い支援してくださる姿に頭が下がる思いです。

今年特に感動したのは、ブラジル人会の方々にお声をかけていただき、「豊田スタジアム」、「聖心教会」、「主税町教会」で盛大なバザーを行ったことです。そして、二つの教会ではフィリピンのボランティア活動に参加した大学生たちの「活動体験発表」にも熱心に聞き入ってくださいました。

ブラジル人会の方々の優しさと素晴らしい行動力を見倣い、RASAも頑張っていかなければならないと感じました。（藤井理事長）

2020年2月　学校建設ボランティア活動

ボランティアに　30名参加！

昨年度と同じく、フィリピン　ブラカン州　パンディー地区に学校建設ボランティア活動に向かいます。　11月23日に第1回事前研修会を行い、より良い活動を願い作成したフィリピン情報冊子としおりを配布しました。あと2回、事前研修会を行い、建設作業や日本語授業等の活動準備を行います。

11月24日から理事長が現地に向かい、参加ボランティアの安全面、衛生面、治安確保について、地域、学校、行政、警察等と綿密に打ち合わせを行い、安心安全な環境であることを確認して参りました。

RASAでしかできない体験で多くを学び、成長される姿が今から楽しみです。

RASAでしか見つからない宝

2016年参加　山内淳史

旅行好きの友人が、セブでジンベイザメと泳いできたの～とLINEを送ってきた。
新宿の知り合いが、マニラで偽物と知りながらヴィトンのバックを買ってきた。
埼玉に住む友人が、「フィリピンってフィリピンパブのイメージ」と真顔で話した。
自分にとっての人生初フィリピンは、幸いにもRASAだった。
マニラからバスに6時間揺られてたどりつく築60年のボロ家屋、ネズミとゴキブリ（南国特大サイズ）が這い回る部屋。でも、なんでだろう。フィリピンのホストファミリーと一緒に過ごす幸福感は、日本では見つからなかったと今も思う。
特に、人とのつながり。日本にはない幸福感だ。フィリピンでは、恵まれないからこそ、シェアする。頼り合う。祝い事があれば親戚・友人みんな呼び集めるし、出かける方面が一緒なら「トライシクル」に乗り合ってみんなで向かう。
自分にとってのフィリピンは、ただ、自分を受け入れてくれる誰かと、一緒にのんびり過ごせる場所。子どもたちが「クヤ～（お兄ちゃ～ん）」って駆け寄ってくる場所。それだけで、自分には充分すぎる宝物だ。

新しいRASAスタッフのご紹介

今秋より、RASAに新しいスタッフが2名加わりました。
活動継続のため、力を合わせて頑張ります。

RASAの基盤強化について　　瀬古 和樹

今年の9月からRASA事務局で広報・IT担当として活動しております瀬古です。私がRASAと関わるようになったのは、2012年にRASAの学校建設ボランティアに参加したことが最初でした。フィリピンでのボランティアから帰ってきてから大学を卒業するまで、学校建設ボラティアの募集活動やホームページ等でRASAの情報発信を行っていました。

しかし、今年の8月にRASAの現状や活動上の問題（人手不足や財務的問題）を聞きまして、私に何か出来ることがあるのならば協力したいと思い、9月からRASAの活動に加わりました。

現在、RASAでは組織の「基盤強化」を意識して日頃活動しております。「基盤強化」とは、RASAの活動上の問題（スタッフの人財不足や寄付金の減少による財務的に厳しいこと等）が起こらないよう組織としての基盤を強化していくことです。また、組織基盤を強化することにより、今後も活動を滞り無く継続していくことができます。具体的な「基盤強化」の施策として、現在は以下のことを取り組んでおります。

・RASAの情報発信の内容を拡充（パンフレットやホームページのリニューアル）
・新たな広報手段を用意（RASAのLINE・YouTubeページを作成）
・事務局スタッフのスキルアップ
・より手軽に寄付できるよう寄付手段の多様化を検討

上記以外にも「基盤強化」のために様々な施策を行い、RASAのフィリピンへの支援活動がこの先も安定的に継続できるよう努めてまいりますので、今後もご支援ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

再びRASAと…　　平子　由美子

はじめまして。平子由美子と申します。10月から経理事務のお手伝いを始めました。

私は32年前、シーランド先生が初めて学生をフィリピンへ連れていかれた時の参加者です。その頃はまだ学校建設が始まる前の段階で、発展途上国のなかでもさらに貧しい農村でホームステイして、自分たちの暮らしや生き方について考えるきっかけにするものでした。従って、フィリピンの子どもたちの役には立てませんでした。その後のRASAは少しずつ進化して、現在のような活動ができるまでに発展しました。これは、継続して取り組んでこられたシーランド先生、藤井さんご夫妻、協力者の方々のおかげです。私は数年前に偶然RASAの報告会に出会い、また繋がりました。

このニュースレターをご覧の皆さま、これからもご支援よろしくお願いします。

カトリック名古屋教区の機関紙に掲載されました

名古屋教区信徒使徒職協議会から、機関紙「スマホニュース」でRASAの活動を紹介するお話があり、「信徒協スマホニュース 11月号」で掲載していただきました。たびたび質問されることの一つ「なぜフィリピンの支援をしているのか？」について、書かせていただきました。

（藤井忠子理事）

毎年フィリピンに学校等を建設贈呈を続け合計30校、今年で20年になりました。フィリピンは約300年間外国の占領下、スペインの植民地、アメリカ、第二次世界大戦中は一時日本、またアメリカと、諸外国の支配を受けてきました。その間に支配国とこの国の富裕層が結び付き、ほんの一部の支配層と、大部分が土地を持たない農民の貧しい被支配層の関係が、長い間継続されてきたのです。被支配層は常に弱い立場で、主に田舎で生活。この格差社会は、経済が発展してきた今も変わらず、格差はむしろ広がる一方です。今は財閥や大地主等の超富裕層に経済が牛耳られ、国民の大多数70％は発展の恩恵に与れず、貧困生活に甘んじています。不安定な生活、低賃金、仕事がない、子沢山が少しづつ改善に向かうといいのですが…国家予算は少なく、制度を作っても十分な予算に程遠い実態です。人々は海外に出稼ぎに行き、その数1千万人超になります。国内ではお米を持っている時に困っている人に融通して、お互いに助け合い、明るく生きています。

貧困の根深い原因は、政治家が大勢の労働者を教育から遠ざける「愚民政策」を執ってきたからです。今も小学校卒業する児童は、全体の80％という現状です。RASAは教育こそが貧困の連鎖を断切ると確信して、学ぶ場所を提供してきました。学齢に達しても就学できない、収入不足や親が病弱で子供を働かせる、空腹で休む等恵まれない子供に、学ぶ場所がすし詰め状態で2部授業という貧しい教育環境を改善することに力を注ぎ、支援を継続してきました。

欠食栄養失調児に給食支援を9年前に開始。2015年から手を貸す運動Ⅱの大きなご支援のおかげで現在100名を支援。半年で体位が大きく向上し、子供の成長が実績で現れます。この発育期の食事は将来の体力や学力形成にも実によい影響を及ぼせるようです。ご支援の御蔭で継続ができます事を感謝し、今後も私たちの活動にご支援をお願いいたします。活動の源は皆様の御寄付です。未来ある子供たちに援助をお願いいたします。

今後の活動予定

12月 8日（日）	給食支援活動発表 聖心教会（豊田市）
14日（土）	学校建設ボランティア活動 第2回事前研修会 平針教会
	第3回 2020年1月18日（土） 平針教会
2月 2日（日）	学校建設ボランティア出発 ～19日（水） 帰国
3月上旬	学校建設ボランティア帰国反省会 南山大学 キリスト教センター
4月	StudyTour、学校建設ボランティア募集活動開始
5月	ボランティアOB・OGバーベキュー大会
	定期総会
6月	CACARON BATA小学校 建物贈呈式
	フェスタ・ジュニナ（チャリティーバザー） 豊田スタジアム
8月	StudyTour（給食支援ボランティア活動）

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています

編集後記 元号が平成から令和に変わった2019年もあと数週間となりました。今年RASAは、大きな一歩を踏み出した一年となりました。より多くの方にRASAの活動を知っていただき、ご支援いただけるように広報活動や基盤強化についてスタッフ一丸となって取り組んでおります。まず、YouTubeで動画配信を始めました。フィリピンの現状とRASAの活動について、より理解いただける内容です。来年も力を合わせ活動に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。よいお年をお迎えください。（宮嶋）

YouTube JP

ホームページ http://rasa-japan.com @rasa_japan @rasa.j @rasa_japan